Jan.23,2026

MGGC

2025 NO.3

Miyagi Goodwill Guide Club（宮城善意通訳者の会）会報
（HP ; http://mggc2019.masa-mune.jp/index.htm）

---------- 目次 ----------

巻頭言

MGGC 設立４０周年記念行事

　　設立記念食事会に参加して（1）、（2）

活動の記録

　　クルーズ船乗客への案内通訳

新会員の紹介

その他

　　フランスのミッシェルさんからの便り

　　忘年会

巻頭言

2026 年年初に思う事

会長　伊東　仁

2025 年は宮城善意通訳者の会が設立から 40 周年の節目の年でした。MGGC の活動としては、4 月と 10 月に仙台港に来仙したクルーズ船の対応。5 月 6 月に開催された仙台国際音楽コンクールに何人かの会員が個人的にではありますが対応しました。仙台七夕も猛暑のなか、多くの外国人の訪問で盛り上がりました。10 月には 40 周年記念の食事会も開催いたし、記念誌も発行しました。記念の食事会は古川善通の宍戸代表、松島善通の相澤会長それに MGGC 元会長の山内さんにも参加いただき少人数ながら楽しく意義のある会となりました。

昨年は大阪関西万博に多くの人が集まり大盛況でした。MLB ではドジャーズがワールドシリーズでブルージェイズとの死闘を勝ち抜き 2 連覇を達成。しかも大谷、山本、佐々木の日本人 3 選手が大活躍しての優勝という事で日本中も大変盛り上がりました。高市早苗さんが日本初の女性首相となり、内閣支持率も高く今後の手腕に期待が高まってはいますが、物価の高騰、米の高騰や円安などの影響で私たちの生活は厳しいものが続いています。全国的に熊の出没が多く仙台市内でも熊の目撃が頻発するなど困った状況が続いています。個人的には 6 月に国際草の根交流の事業に参加し、40 年ぶりにサンフランシスコを訪れました。シリコンバレーでホームステイし印象深い体験をしました。

帰国後、入院して手術を受けるという経験もありましたが大過なく健康で過ごしています。2026 年はアメリカ合衆国建国 250 周年の年であり、草の根交流事業では 10 月にフィラデルフィア大会を企画しています。できれば私も参加したいと考えています。それとは別に私の地元の姉妹都市交流で 3 月に高校生の派遣事業があり、ジョージア州ダブリン市に団長として 10 回目の訪問を予定しています。現在事前研修などの準備をしております。こちらも 28 年つづく交流事業なのでダブリン市の協会の皆さんと再会するのがとても楽しみです。とは言っても今年 71 歳になる年金生活者なので、両手に山ほど抱えている役職を少しずつ減らしていこうと考えております。スキーは上達しています。英語も現状維持で少しずつでも上達していければと思っています。

優秀な会員の皆様に支えられて頼りない会長ではありますが 2026 年も会を盛り上げていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。今年もお正月の箱根駅伝での青山学院の 3 連覇で驚き、冬季オリンピックパラリンピック、WBC、FIFA ワールドカップ、ドジャーズの 3 連覇はあるのかなどスポーツイベントから目が離せません。会員皆さんの健康と充実した一年になりますようご祈念申し上げます。

MGGC 設立40周年記念行事

設立記念食事会に参加して（1）

関 まゆみ

40 周年記念という大きな節目を祝う食事会に参加し、心に残るひとときを過ごしました。会場となったキリンビール工場併設のレストランは、これまでの歩みを労い、これからを語り合うにふさわしい活気に満ちた雰囲気に包まれていました。館内にはビールを楽しむ大勢の人々の声が満ち、私たちの個室にも隣室からの賑やかな笑い声が届いていました。これはこの場所ならではの魅力であり、長い年月を歩んできた本会の祝宴にふさわしい背景のようにも感じられました。また、多少の騒がしさにも負けず「せっかくの節目だからこそ、隣に負けず！皆で盛り上がろう」と声を掛け合う雰囲気に、先輩方の朗らかさと結束の強さを感じ、今回の祝宴にふさわしい喜びや華やぎを添えていたように思います。会長や役員の皆さま、そして新旧の会員が一堂に会する光景は、本会が積み重ねてきた年月の重みと温かさを静かに物語っているようでした。

歴代会長や創立当初から運営を担ってこられた先輩方のお話、スクリーンに映し出された過去の活動の数々からは、社会の変化の中にあっても揺るがぬ思いを持ち続けてこられた姿勢が伝わり深い敬意を覚えましたし、普段はなかなかお会いする機会の少ない会員の方々と、送迎バスの道中や食卓でゆっくり言葉を交わすことができたことも、今回ならではの喜びでした。何気ない会話の中に、それぞれが大切にしてきた経験や思い、同じ志を共有する仲間としてのつながりを改めて感じました。

私は現在、英語学習会を担当しておりますが、こうした先輩方の歩みを伺う中で、学び合いの場が人と人を結び、活動を支える力になることを改めて思いました。少人数ながら和やかに続けている学習会も、本会の一つの小さな流れとして、今後さらに広がっていけば嬉しく思います。

先輩方が築いてこられた確かな歩みを大切に受け止めながら、これからの活動にも寄り添い、できることを少しずつ重ねていけたら――そんな思いを新たにした心に残る祝宴でした。

設立記念食事会に参加して（2）

齋藤 和晴

私は昨年 10 月、本会のお仲間に入れていただきました。すぐに開かれた「創立 40 周年記念食事会」は、私にとっては大変幸運なイベントでした。入会したばかりの私は、会の中身についてほとんど知らなかったのですが、壁に投影された過去の活動の写真や、伊東仁会長、山内ミサオ元会長、相沢多恵子松島善意通訳者の会会長、宍戸淳一古川善意通訳者の会会長の方々のご挨拶から、この会がいかに活発に活動してきたかを知る事ができました。また、その後の皆様のお話を聞く中で、アフリカやブラジル、ポルトガルなど私の知らない地域で活躍されてきた方々がいらっしゃる事、さらに会の活動内容が七夕祭りの通訳ボランティアだけではなく、芋煮会からスキー交流会、仙台市内や松島の観光案内など多岐にわたっている事も知りました。私は印象として米国人は明るいと思っていましたが、皆さん米国人以上に明るい事に驚きました。国際人とは、このように常に明るくふるまう人の事を言うのだろうと、目から鱗が落ちる思いでした。瞬く間に二時間が過ぎ、隣の部屋が大声の「一本締め」で宴会を終えると、こちらも伊東会長のご発声の下、それを上回る大きな掛け声で、明るく一本締めで会を締めました。日々、宮城県の国際化に貢献されている皆さんの底力を感じました。料理もおいしく、皆さんの教養深いお話に心打たれた素晴らしいひと時でした。

活動の記録

クルーズ船乗客への案内通訳

佐藤 正壽

2025 年 10 月 4 日、および 10 月 18 日仙台港に豪華客船 Seven Seas Explorer が到着し、そのお客様への案内通訳を伊藤卓雄さんと私の二人で担当しましたので、報告致します。

両日とも 20 程の個別案内有料バスコースが準備されており、瑞鳳殿・仙台市博物館・大崎八幡神社・金蛇水神社見学等が用意されており、各コース共専任の通訳ガイドの方がおり、予約した方はそれぞれのバスで見学に行かれました。

それとは別にシャトルバスが準備されており、仙台港と仙石線本塩釜駅とを往復する無料のバスが用意されておりました。伊藤さんと私はこのシャトルバスの案内役を担当し、伊藤さんは仙台港から乗車する方々を案内し、私は本塩釜駅前で降りる方、そしてバスで港へ戻る方の乗り降りを担当しました。昨年は一人で本塩釜駅を担当しましたが、塩釜市の見学先などの相談がありお昼も休めない程でしたので、今年は二人体制をお願いしました。今年は YMCA の学生さんの A 君と B 子さんが担当に加わり、A 君は私と一緒に本塩釜駅を担当して下さいました。

B 子さんは伊藤さんと港担当でした。A君は英語も堪能であり、インド料理にも詳しく、本塩釜駅

近くに出来たインド料理屋などをお客さんに紹介しており驚きでした。今年はお昼時間もとることが出来て楽しく過ごせました。私は小学 1 年生の時まで本塩釜に住んでおり、とても懐かしく昔を思い出しながら案内をしました。船のお客様はご高齢の方が多く、塩釜神社まで行かれた方は 1 組だけでしたがとても素晴らしいとの感想で、うれしかったです。

今回初めて通訳を担当した A 君と B 子さんは、YMCA で日本語を勉強した後は、日本のホテルで働きたいと抱負を述べておりました。お二人の今後のご活躍の件にも話が弾みました。次の案内も担当したいと話しておりました。

シャトルバスへ案内

伊達武将隊による歓迎

新会員の紹介

齋藤 和晴

はじめまして。私は現在、定年退職後の第二の職場である私立高校で政治経済と倫理を教えております。最近、生徒の意欲・関心・態度まで数値化せよとの難しい課題が出され、悪戦苦闘しながら取り組んでいます。とは言え、生徒の顔を見ると元気が出るので、出勤自体は大きな楽しみです。そんな私が本会に入会した理由は、宮城県にやって来た外国の方々に地元の魅力を伝え、楽しい会話を通して満足感を得て頂きたいとの思いと、未知の文化に触れて私自身も成長させて頂きたいと思うからです。

私の英語は、50 年前に東京で聴いた米軍のラジオ放送「FEN」がきっかけです。意味の取れない早口の英語の中に、天気予報などの簡単な英語が少し聞き取れた時、とても嬉しく感じました。その後は独習なので、あまり上達していません。ただ英語を話すと、自分の人格が少しポジティブに変わるのが心地よく、あたり迷惑と知りつつ英会話の機会を求めています。どうぞよろしくお願い致します。

その他

フランスのミッシェルさんからの便り

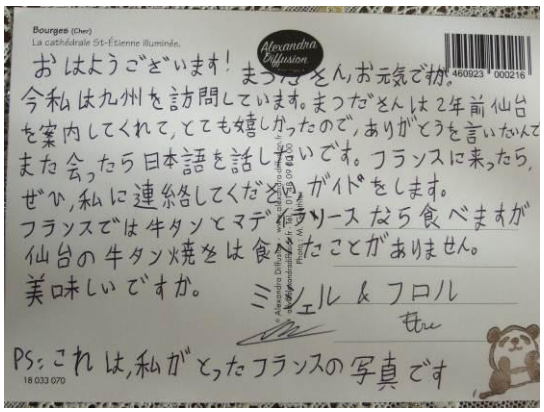
松田 昭二

英語の担当となって、10 年以上にはなりますが、こんな機会に恵まれるとは、想像もできませんでした。2025 年 8 月のある日、突然、フランスから e-mail が届きました。「絵ハガキを送りますから、住所を教えてください。」と。確か、ミッシェルさんとは、２年前、ガイドの依頼を受け、成毛さんと伊藤さんにガイドをお願いしました。

8 月末、そのミシェルさんからまた、メールが来ました。そのメールに、添付されたスライドは、2013 年、2017 年、2018 年、2023 年の 4 回、訪日した際の写真が、500 枚以上編集された写真集でした。それは、1 回の訪日の際、20 日前後で、日本の各地を回り、その土地の名所、世界遺産、祭り、名物料理などの写真集であった。その他、各回の訪問場所、かかった費用（交通費から食事代まで）も書いてあった。さらには、2025 年、秋の訪問場所まで書かれてあった。ただただ、すごい物をいただいたと思った。

そして、住所を送ってから 1 ヶ月程たった 9 月末、宛名もお便りも日本語で書かれ、絵はがきと何枚かの写真が入った封書が届いた。消印は九州の福岡からであった。絵はがきの文面を見て、びっくりしました。実際にガイドをした伊藤さんが、どこでどう間違ったのか、「松田」に変わっていました。でも、この間違いがあっても、メールのやりとりが、続いているのも事実です。

絵はがきは、ミッシェルさんが撮った写真の絵はがきで、彼の住んでいるところの世界遺産の寺院「ブールジュ大聖堂」でした。調べてみたら、ブールジュ大聖堂は、ランス大聖堂、シャルトル大聖堂、ノートルダム大聖堂に並ぶ大聖堂と書いてあった。何回かのメールで分かったことは、2013 年、初めて日本に来た時から日本語の勉強を始めたようです。



ミシェルさんからの絵はがき、表（左）と文面（右）

もう 1 つ、現在は、italki のウエブサイトの個人指導で、日本語を学んでいるそうです。10 月のメールでは、第 5 回目の日本への旅（九州、特に屋久島）で、いろんなことを発見したと書いていました。屋久島では、ハイキング、シュノーケリングで楽しんだようです。写真も 4，5 枚、送られて来ました。

最後に、「フランスへは、まだ行ったことはない。」と言う私のメールに、ミッシェルさんは、11 月のメールで、フランス各地の写真を送ってくれました。これは、日本スライド集のフランス版

で、Jong Chan’s trip とあるので、中国系の人が、作った写真集と考えられるが、それはともかく、13 の項目（地名）に別れ、各項目は、①必ず行くべき場所、②時間があれば訪れるべき場所、③見つけたら、ぜひ食べるべき物と表示されていた。いくつか抜粋すると、1.パリは、ルーブル美術館から始まり、ベルサイユ宮殿、エッフェル塔など　2. 典型的な「蚤の市」　3.ノルマンディー　4.モン・サン＝ミッシェル　5.ボルドー　・・・・・・　13.アルザス地方　等。そして、各項目毎に 10 枚から 20 枚の写真がついてあった。とにかくこれもすごい作品集である。

私の方からは、仙台観音像、牛タン、仙台七夕まつり、ヒガンバナ、シュウメイギク、炎が出るラーメン屋、そば打ちなどの写真を送った。そんなわけで、こんな風にミッシェルさんとのメールの交換を楽しんでいます。

忘年会

小池 みえ子

毎年恒例の忘年会を「集合朗　はなれ」で行いました。参加者は 10 名でした。毎回皆さんの 1 年間の出来事を聴けるのが楽しみでワクワクしています。鈴木澄男さんがスキーの初滑りに湯殿山スキー場に行ってきたとの事で少し遅れて参加しました。

伊東会長はアメリカジョージア州アトランタに行った事。尾田さんは自宅マンションの上の階が火事になり水漏れ等の被害を受けて大変だった事。成毛さんは職場（学校）でのいろいろな出来事。千葉さんはスキーで怪我をしてもまだまだスキーへの情熱は健在でした。佐藤わか子さんは「お節介おばさん」を続けていて悪徳な行政書司で困っていた中国人を偶然な出合で鈴木澄男さんに力を貸してもらい助けることが出来た事（MGGC ならではの出会いでした）。

小池は以前ホストファミリーをしたバングラデシュの留学生が国で出世し、東京に出張した際仙台に会いに来てくれ、夫と共に家族や近況の事を話すことが出来感謝です。佐藤正寿さんは 40 周年の事や仕事の話家族の事。鈴木澄男さんからは佐藤わか子さんの話の続きと現在の留学生を取り巻く社会の状況について話を聞くことが出来ました。松田さんは通訳担当としての困っていることや悩みについて、また自身の健康に気を付けている事等。

特筆すべきは只野さんでした。趣味で「オー・ヘンリー賞の優秀作品賞」の短編集の翻訳本を作ったとの事。非売品とのことですが参加者全員に分けてくださいました。年齢に関係なく趣味として英語に関わっている事に尊敬の念を抱いています。今自宅で読んでいる所です。

この様に忘年会では自分では経験出来ない色々な話を聞くことが出来て本当に嬉しく思いす。また多方面で活躍している MGGC 会員を誇りに思いました。

編集後記

伊藤 卓雄

活動の少ない時期ではありますが、皆さんからの投稿で 2025 年度も NO.3 を発行することができました。ご協力に感謝申し上げます。来年度も積極的な投稿をお願いします。

The
WORLD